

授業科目 日常生活活動学実習Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	作業
貝淵 正人		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】					
日常生活活動（ADL）および生活関連活動（IADL）分析・評価および、障害者への支援・指導法など応用的技法について修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1. 健常者の基本動作の特徴を分析することができる。 2. ADL 評価を的確にできる。 3. クライアントの ADL を正しく観察することができる。 4. 対象者に真摯な態度で接し、正しく安全に介助することができる。 5. 対象者の予後を想定し、OT プログラムを立案することができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	起居動作の分析			1	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
2	ADL 動作分析 1			1・2	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
3	ADL 動作分析 2			1・2	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
4	ADL 評価			2	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
5	姿勢の評価：臥位・座位・立位の観察ポイント			1・3	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
6	寝返りと起き上がり（CVA 者）			3・4	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
7	座位保持や立ち上がり（CVA 者）			3・4	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
8	歩行や transfer の診方と介助（CVA 者）			3・4	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
9	姿勢の評価：臥位、座位、立射の観察の point			3・4	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
10	その他の疾患（ataxia）の ADL の評価			3・4	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
11	その他の疾患（ataxia）の ADL の観察の point			3・4	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
12	CVA 者の床からの立ち上がり			1・3	実習 貝淵、担当：貝淵 正人 他
13	CVA 者の ADL の回復や goal 設定			3・5	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
14	CVA 者の ADL 評価からプログラム立案			5	実習 貝淵、担当：貝淵 正人
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		片麻痺能力回復と自立達成の技術	生田宗博	三輪書店	2008・5,460 円
		日常生活活動（ADL）新版—評価と支援の実際	伊藤利之、江藤文夫	医歯薬出版	2010・7,140 円
参考書		ADL とその周辺 第 2 版	伊藤利之、鎌倉矩子	医学書院	2008・6,300 円
		ADL 第 2 版—作業療法の戦略・戦術・技術	生田宗博	三輪書店	2005・4,725 円
		日常生活活動（動作）	土屋弘吉	医歯薬出版	2002・6,650 円
その他の資料					
【評価方法】			【履修上の留意点】		
(1) 出席 2/3 以上 (2) 期末試験 60 点以上 (1) でかつ (2) の場合、合格とする			動きやすい服装で参加すること。 対象者と接する場合には医療従事者らしい真摯な態度で臨むこと。		